

める方針を出されましたけれども、被爆50周年では、ブルーリッジが入りましたときに回避の要請をされました。在福岡アメリカ領事館に対してですね。これはわいせつ事件が起きましたですね。そして、被爆55周年、12年2月14日に入港したディケイター、これも回避要請をされました。つまり、50年と55年には回避要請をされたわけです。そして今回、いろんな事件がありましたから回避要請をされたんだろうと思いますが、今度は暴力事件が起きましたですね。県知事は、今後一切、入港は回避してもらおうということを言っておりますが、市長の姿勢は変わらないんですか。

それからもう一つ、市長は、有事法制の非核三原則の問題につきまして、きょうですね、全国316の非核自治体の会長として、中央に対して抗議、撤回、法制化を求めておられます。その姿勢は、長崎市長個人と316の自治体の長としての伊藤市長とは違うんですか。抗議の姿勢はあるんですか。

原爆被爆対策部長（太田雅英君） 井原議員さんの再質問にお答えをしたいと思います。

まず、非核宣言自治体協議会でございますが、これはともに、市長もともどもでございますが、いわゆる非核三原則の法制化を図ってほしいという意味での要請を行っているところでございます。

以上でございます。

副議長（松尾敬一君） 次は、11番下条文摩左議員。

〔下条文摩左君登壇〕

11番（下条文摩左君） 自由民主党・市民会議の下条文摩左でございます。

質問通告に従いまして、短中期的まちづくりについて、伊藤市長が3月議会の所信の中で示されました「2006年春・こんなにかわる長崎」についてお尋ねをいたします。

さて、戦後生まれの私どもが体験した範囲でも、オイルショックなど幾度かの経済不況を迎え、苦しみながらも、その困難な時期を乗り越えてきたのでありますが、今回のバブル崩壊に端を発した10年間という長期の不況泥沼化、いわゆるデフレスパイラルは、それまでの外的要因とは原因を異にし、国際化、ポスターレス化、IT化が急速に進行する中にありながら、打つ手打つ手が後手後

手と回ってしまった国の政策、人件費や製造コスト高による国際競争力の低下と産業の空洞化、人口構成の著しい変化など、我が国の政策と国民の対応のまずさが招いた結果だと言わざるを得ません。

本市にあっては、人口減少と高齢化社会への急激な移行、我が国西の端まで行き届いた規制緩和による中央資本大型店の出店や公共事業の削減などが市財政と市民生活を圧迫しているといえます。

政府の5月月例報告では、景気の底入れ宣言がなされたり、マスメディア経済番組での専門家のそれらしき発言は、たびたび聞かれるようにはなりましたが、下げどまりを実感できない今日の状況であります。それにしても、不況にあえぐ国民生活を守るべき重要法案審議中の国会開会の最中、鈴木宗男問題を初めとした国会議員の相次ぐ不祥事の発生や国是とする非核三原則にかかわる政府首脳による軽々な発言には情けない限りであります。

現在の低迷する経済・雇用情勢は当分の間続くことを覚悟した上で、地方の諸政策を進めていかなければならないと思うとき、今後の長崎市の都市経営は非常に厳しい要素が多いと言わざるを得ません。

昨年策定されました長崎市第三次総合計画には、25中核市を対象とした都市水準の比較が記載されておりますが、それを見ましても、人口増減率、生産年齢人口割合、財政力指数、公債費比率、自主財源比率など、都市の基礎体力を示す得点が軒並み25都市中20位以下と低くなっております。

平成22年度までの長崎市政の方向性を示す長崎市総合計画は、このような足かせをつけたまま進行していくわけでありましたが、そこには他都市以上に確かな見識とリーダーシップが求められると思うのであります。

伊藤市長は、就任直後から「核兵器廃絶元年」「まちづくり元年」「出島復元元年」などとわかりやすい言葉で折々の課題を掲げ、市民に示しながら市政を推進してこられました。その後は、市政の方向性をトータルに表現する言葉として「オンリーワンのまちづくり」を標榜しておられます。さらに、本年の施政方針で、市長は長崎市第三次総合計画前期基本計画の最終年度である2006年春、

平成18年春を目指して、長崎を世界へアピールする力強いまちづくりを基本戦略とすることを示され、その具体的な事業として、「2006年春・こんなにかわる長崎」発信事業を挙げられました。2006年に向けて長崎のまちづくりをリードされる市長の意気込みをそこに見る思いがいたしますが、施政方針では十分示されなかった部分があるようにも感じております。

そこで、2006年春の状況について、数点にわたり質問をさせていただきます。

1つ、平成16年春には九州横断自動車道の長崎市内延伸、出島バイパス、平成18年には女神大橋などが完成いたしますが、市長は、これまで市内の主要な地域間をおおむね30分程度で移動できる放射環状型交通ネットワークづくりを目指してこられました。このいわゆる30分交通圏ネットワークは、2006年にどのようになっているのか。

次に、現在、県市の協力により諏訪の森再整備が進行しており、長崎奉行所の復元、歴史文化博物館、そして長崎県新美術館の建設が平成17年に完成いたします。歴史文化的施設の整備に関しては、出島復元、唐人屋敷の顕在化、鳴滝塾の復元にも市民の関心が高いところでありますが、これらは、その時点ではどのようになっているのか。

3点目に、長崎市では、ベイサイドマラソン、長崎帆船まつり、長崎ぶらぶらフェスタ、長崎ラントンフェスティバルなど、さまざまなイベントを展開していますが、今後のイベント展開について、どのように考えておられるのか。

農林水産の振興ということでは、花の苗の育成などを始めてきたようではありますが、このような動きが、今後、地元にもどのような影響を与えるのか、お聞きをいたしたいと思っております。

介護保険制度には長崎方式を導入されるなど、積極的に取り組んでこられました。今後、市町村合併に向けて、どのように他市町村に働きかけられるのか。また、長崎方式は、今後、どうなるのかをお尋ねしておきたいと思っております。

次に、本年、ごみの指定・有料化を実施し、現在まで順調に推移しているようではありますが、今後、さらにどのような対策を考えておられるのか。市町村合併後は、長崎方式の収集方法は堅持されていくのかどうかもお尋ねをいたしたいと思いま

す。

今月の4日、あぐりの丘に市が整備してありました障害者用の福祉農園が完成いたしました。今後、このような菜園療法は、どのように振興していくのか。

以上、7点ほど壇上より、まずお尋ねをしたいと思います。＝（降壇）＝

副議長（松尾敬一君） 市長。

〔伊藤一長君登壇〕

市長（伊藤一長君） 下条文摩左議員のご質問にお答えをいたしたいと思っております。

私の政治姿勢の中で、「2006年春・こんなにかわる長崎」を初めといたしまして、短期的なまちづくり、夢づくりという形で7項目質問がございました。順を追って、私の方から答弁をさせていただきます。

まず、30分交通圏ネットワークの件でございますが、2006年（平成18年）の春の状況のうち1点目の幹線道路網の整備の状況についてであります。長崎市では、九州横断自動車道や女神大橋線、長崎外環状線などの環状線や浦上川線などのバイパス道路を重点的に整備をし、南北、東西交通に柔軟に対応できる放射環状型の幹線道路網の整備を図ることによりまして、長崎市の主要な地域間を30分程度で結ぶ30分交通圏の都市づくりを目指しているところであります。

2006年春には、九州横断自動車道、出島バイパス、女神大橋線、小ヶ倉蛭茶屋線等の本市道路網の骨格をなす道路がおおむね完成の予定でありまして、さらに地域の生活幹線道路といたしましても、油木町西町線が完成、虹が丘町西町1号線についても完成間近になる予定であります。これによりまして、都心部を中心とした交通渋滞の緩和が図られ、本市の経済、観光、文化などの発展に多大な効果をもたらすものと考えているところでございます。

次に、第2点目の歴史的・文化的施設の整備についてであります。出島復元につきましても、長崎市のまちづくりの重要な核と位置づけられておりまして、平成8年度からおおむね15カ年をかけて整備する短中期計画と、19世紀初頭の完全復元を目指す長期計画に基づきまして、市を挙げて現在取り組んでいるところであります。

平成12年3月には、待望の19世紀初頭の建造物5棟を復元し、昨年度には、懸案でありました史跡内の完全公有化がこの3月末ですべて終わりました。すべて市の土地となったわけでありまして、本年度からは、第2期工事といたしまして、出島の中で最も大きな建物でありますカピタン部屋を初め計6棟の建造物及び南側護岸石垣の復元を平成17年度の完成を目標に取り組んでおります。まさに、2006年春には11棟の建造物がそろい、出島は往時の姿に大きく近づくことになるわけでありまして。

次に、唐人屋敷につきましては、鎖国時代、中国人居留地として築造されたものであり、出島と並ぶ貴重な歴史的遺産であると考えております。この貴重な史跡を顕在化して、地域まちづくりの核として、また、新たな観光拠点として活用を図るために、平成13年度から短期的に取り組むべき事業について推進しているところであります。今年度以降は、唐人屋敷跡の範囲を示す四隅のモニュメント、石垣などの遺構についての説明板、誘導サインの設置並びに歴史的な環境をつくるための回遊路の整備、土神堂、観音堂、天后堂の敷地整備、都市計画道路新地町稲田町線の整備などを予定しているところであります。また、あわせて散策地図の作成あるいはインターネットによる情報発信も予定しております。

次に、鳴滝塾の件でございますが、鳴滝塾の復元につきましては、本年3月、国指定史跡・シーボルト宅跡整備活用協議会より提言をいただいたところであります。その中では、この史跡が西洋科学発祥の地であったことを来訪者がより詳しく学習できるようにすることを念頭に置いて、当時の環境、建物、植栽、景観をでき得る限り忠実に復元することを目指すことが提言されております。鳴滝塾の復元につきましては、以前から各方面より強い要望がございまして、長崎市といたしましても、当時の建物の資料の所在について調査を行っておりますが、現在のところ復元に残念ながら十分なものは発見されていない状況でございます。今後も引き続き資料の発見に努めるほか、あわせて本年度、宅跡とされている部分の発掘調査を行い、遺構の確認を行う予定であります。

なお、来年度より宅跡の環境整備工事に着手を

したいというふうを考えております。

出島復元、唐人屋敷、鳴滝塾とも貴重な歴史遺産であり、2006年には、より歴史の香り豊かなまちにしたいというふうを考えているところでございます。

次に、第3点目のイベントの展開についてでございますが、現在、本市では魅力ある滞在型観光都市づくりを目指して、長崎らしさを生かした魅力あるイベントを創出し、四季折々に展開しているところであります。伝統行事といたしましては、八夕揚げ、ペーロン、精霊流し、中国盆会などのほかに、秋の大祭長崎くんちなどが長崎の風物詩として広く親しまれているところであります。また、今や冬の長崎の一大イベントに成長いたしました長崎ランタンフェスティバルは、本年度、実行委員会ができて10周年を迎えることから、記念イベントを実施するとともに、一層の充実を図ることとしております。

さらに、新たに創出したイベントでございますが、春の長崎ベイサンドマラソン&ウォークと長崎帆船まつりは、スタートから日は浅いものの、港町長崎の魅力を堪能するのにふさわしいイベントとして多くの皆様に、ありがたいことにご好評をいただいているところであります。

また、昨年初めて実施しました市民・観光客参加型のイベント「長崎おどりちゃんぽんフェスタ2001」につきましても、本年11月に「長崎ぶらぶらフェスタ2002」と銘打ちまして、2日間開催をする予定であります。

このように、長崎の伝統行事と新たなイベントを融合させることによりまして、四季を通じ、年じゅう彩り豊かな長崎を演出したいと考えているところであります。

今、一つひとつがまず市民にとって魅力いっぱいのイベントであるよう、また、訪れる皆様方に感動していただけるイベントとなるように努め、「2006年春・こんなにかわる長崎」のアピールの一環になればというふうを考えているところであります。

次に、4点目の農林水産の振興についてでございます。下条議員ご承知のとおり、長崎市では、平成14年度からの新たな取り組みといたしまして、花き花木苗育成事業を行っております。この事業

は、長崎の街角に植えられております花苗の大半を市外からの供給に依存している状況を踏まえ、まず、みずから生産し、本市の事業に活用することができないかと考え、本年度、新たにに取り組むことにしたものであります。育てた花き花木類の苗につきましては、既に実施しております花のあるまちづくり事業に活用することによって、市道沿いの花壇や公共施設等に植栽したいと考えております。

また、平成15年度には全国高等学校総合体育大会、いわゆる長崎ゆめ総体が開催されますが、大会に参加する全国の高校生たちを市内で生産したたくさんの花によって迎えたいというふうにも考えているところでございます。

さらに、この事業を実施しながら農業経営のモデルケースとしての面からの採算性、管理方式等について模索し、花苗生産農家の育成に努力したいと考えております。

また、本事業の生産管理につきましては、地元自治会及び市民団体等に委託する計画であり、住民の生きがいつくりや雇用の場の創出にもつながるのではないかと考えております。

なお、任意合併協議会に参加されておられます各町におきましても、合併した場合には、この事業につきましては広げていっていければ大変ありがたいというふうを考えているところでございます。

続きまして、第5点目の介護保険制度についてであります。介護保険の長崎方式であります移送支援サービスは、市町村が独自に実施する市町村特別給付としてサービスの提供を行ってきたところであります。過去2年間における事業実績につきましては、制度施行当初に比べ着実にふえてはおりますが、本市介護保険事業計画で推計いたしておりました数値とは、残念ながら乖離が生じております。そこで、本年度実施する移送支援サービス給付分析事業の中で、利用者のご意見をお聞きしながら、このサービスの今後の利用移行等を把握し、平成15年度からの第2期介護保険事業計画の策定に生かしていきたいと考えているところであります。

また、市町村合併に向けての介護保険事業の取り組みにつきましては、第2期介護保険事業計画

が平成15年度から平成19年度の5カ年間の介護保険事業運営についての計画を策定するものであります。この計画の期間中に合併することになれば、新たな事業計画を策定することとなり、介護保険料を含めた見直しが必要となってまいります。

長崎方式であります移送支援サービスにつきましても、新たな市町村の枠組みの決定後に設置される介護保険事業計画策定委員会の意見を踏まえて検討されていくこととなるものであります。老人保健福祉計画との調和も含めまして、新しい枠組みで長崎市の将来像をどうするべきかという視点から、移送支援サービスの今後のあり方について検討してまいりたいと考えております。

次に、第6点目のごみの問題であります。ごみ袋の指定・有料化につきましては、本年2月から全市で実施させていただきましたが、大変順調にスタートすることができ、皆様方のご協力に感謝いたしますとともに、市民皆様方の良識の高さに改めて感慨を深めているところでございます。ごみの資源化につきましては、家庭から排出される燃やせないごみのうち、容積比で8割近くを占めるプラスチック製容器包装廃棄物の分別収集を全市で実施することとし、平成13年10月よりモデル地区におきまして、全市実施に向けた問題点の把握等を行うための試行を行ったところであります。平成15年度には、市内の約半分の地域で本格実施を行う予定であり、早期の全市実施に向けて検討を進めているところであります。

また、ごみの早朝収集でございますが、現在、南山手地区、松山地区等の観光地周辺におきましては、早朝からの収集を実施しているところでありますが、今後、行革大綱の中でも定められておりますごみ収集業務の一部委託の実施に伴い、その他の観光地及び主要幹線道路沿いで早朝収集についても取り組んでいきたいと考えております。

そのほか、自動車や金属類等の野積みの改善についても、鋭意、検討中であります。

合併後も長崎方式を採用するのかという点であります。現在、ごみの分別区分や処分方法、ごみ袋、収集体制等につきましては、各町それぞれ異なる制度を取っております。これらを統合するには、問題点等を整理する必要があります。また、ごみ行政は、毎日の市民生活に直接影響を及

ばすものであるため、住民の混乱を招かないように、今後、合併協議会の中で協議をしながら慎重に検討していきたいというふうに考えているところでございます。

質問の最後のあぐりの丘の園芸療法についてお答えをいたしたいと思えます。

あぐりの丘では、園内の畑を活用した農作物の収穫体験を実施し、子どもから老人までの幅広い年齢層の方に親しまれているところでございますが、福祉部門など、さらに幅広い活用が望まれているところであります。

このような中、畑の活用の一環として、欧米では広く普及しております園芸福祉・園芸療法に着目し、昨年度より老人ホーム等の施設を対象に、自然や土に触れ合う体験を通して、心と体のリフレッシュの場を提供することを目的とし、試験的に畑の一部を提供し、ご活用いただいているところであります。

さらに、今年度からは障害者向けにも畑の一部とビニールハウスを提供することとし、去る6月4日に長崎市心身障害者連合会の皆様方により、松尾敬一副議長さんもお出席のもとで、くわ入れ式が行われたところであります。

今後は、高齢者や障害者の皆様による畑の利用状況を見守りながら、活用の効果を見極めていきたいと考えております。

なお、今年度からは、あぐりの丘に隣接する未開発の180ヘクタールについて、自然環境を生かした土地利用の基本計画を策定することとしており、今後も市民の皆様により親しまれる施設づくりを目指していきたいと考えております。

以上、私の本壇よりの答弁とさせていただきます。

くわ入れ式には、高比良議員さんもお出席をいただいております。

以上付け加えて、私の方からの答弁とさせていただきます。＝（降壇）＝

11番（下条文摩左君） 市長から一通りの答弁をいただきまして、ありがとうございました。

時間もございますので、数点にわたりまして、再質問なり、また、私なりの意見を申し上げたいと思えます。

まず、2006年前後のまちづくりということにつ

いて、今、市長は、壇上から完成事業を中心とした答弁をいただいたところでありますけれども、今、3月議会の当初予算で500万円ほど計上されております。そういった長崎市の新しいまちの姿というものを国内外にアピールをしていきたいということでの準備がことされるわけでありまして、どのような形で発信されようとしているのか、そういうことをお尋ねしたいなと思っております。

それからまた、別予算で、いよいよアジアの時代が到来をいたしまして、中国もビザ解禁で13億人を抱える大きな大国でございますが、間もなく日本に追いつくぐらいの勢いの経済国家としての成長をされているわけでございますが、いよいよ中国というものが日本に、あるいはまた世界に旅行者を大いに出していただく。もともとがハウステンボスができるときにも、基本的には中国の観光客というものを頭に置きながらの建設がされたようにお聞きをしているわけでございますけれども、そういった中でのアジアに向けての問題というものを私たちも一番、中国や韓国に近い長崎県でありますので、その点についてお尋ねをしたいと思えます。

それから、ことしも長崎・小浜雲仙・島原観光ルート連絡会ですが、こちらで今度は4カ国といいますが、中国、韓国、これは去年もそうでしたが、香港、台湾というところに出かけられたり、売り込み誘致に回られるわけでありまして、昨年度、私も韓国の方を同行させていただきました。エージェントの皆さん方、専門家の皆さん方との勉強会が、ビデオを中心としてされた後に懇談会があったわけでございますが、すばらしいビデオを長崎市が制作をされて、それを一緒に見せていただいたわけでございますけれども、私も途中で、このビデオは中国向けと韓国向けが、時間的なこともあってか、同じものをつくられたんだなという感じぐらいはしておりました。しかし、立派なものだと思っておりまして、この研修会が終わった後の懇談会で、韓国のエージェントの方たちから、複数でございましたが、「これはもしかしたら中国向けにおつくりになったんじゃないですかということで、長崎のランタンであります、ペーロンであります、おくんちであります

と、何か中国とのかかわりというものを100%強調されておられて、やはり私たちは、そうなれば中国に似ている長崎を見に行くということになるよりも、そういうものを見なければ中国本土に観光客を送り込みます」というふうなこの話がございました。できましたら、長崎県の県庁所在地の長崎市でありますから、長崎県と韓国というのは一番近いところでありますし、また、そういった歴史的なものがありますから、こういった点を中心とされて、長崎市の売り込みというものをやってほしいなというようなことを言われておりました。

それから、これはちょうどそういった一つの足かせがある連絡協議会の中でのビデオ制作であったからやむを得ないのかなと思いますが、まだまだこれからのアジアの観光客を誘致するにおいては、温泉でありますとか、これは雲仙・小浜が入っておりますから十分であります、温泉でありますとか、あるいはまたハウステンボス、そのようなテーマパークというものをちょっとでも入れていただいて、対馬、壱岐、そして県北、そこにハウステンボスがあって、県庁所在地の長崎市なんだということの後に温泉というものを紹介していただければ、自分たちとしても売り込みやすいという話がありましたので、ことしは中国向けしかビデオはつくらないというふうな予算計上になっているようでございますが、どうぞひとつ一考を要したいと思いますが、ご意見があれば賜りたいと思っております。

それから、女神大橋のお話をいただきました。平成17年度にいよいよ完成を見るわけでございますが、もうそういう時期になってまいりましたので、いわゆる女神側と戸町側、それと西泊側ですが、そちらの方の両2つの大きな展望所というところの建設がいよいよ設計の段階ぐらいい入ってくる時期なのかなと思うんです。基本的には県の事業になろうかと思いますが、長崎市がどの程度関与されながら、一体となってされていると思いますので、そういった点がどのように今、青写真ができていのかというものをお示しいただければなと思います。

また、鍋冠山も市長が非常に一体的に、女神大橋の建設と同時に、鍋冠山から眺めた眺望という

ものも考えておられるようでありますので、その再整備、あるいはまたアクセスも含めてお考えをいただければと思います。

それから、道路問題で、女神大橋の後の油木町西町線、虹が丘町西町線という答弁をいただいたわけでございますが、例えば長崎バイパスから西山トンネルを通りまして蛭茶屋、それから蛭茶屋を通過して田上、戸町、それから女神大橋あるいは柳田というところに道路が延伸することになるわけですが、この北部から東側と言っているのでしょうか、この環状ルートの半分は、ほぼ市民の皆さん方も見えてきたと思うんですね。これからいよいよ女神大橋が福田の方まで伸びていって、これがどのようにして西側を通過して滑石を通り過ぎ、先に行くのかなというふうなものも非常に関心があるようでありますので、この虹が丘町西町線ですね、道の尾病院の横に取り付けがされていくと思うんですが、これから先の計画、いわゆる滑石から西彼杵半島を通りまして第2西海橋という構想があるわけでありまして、この件についても、特に浦上川線の北伸との絡みもあるかと思いますが、ご答弁をいただければと思います。

それから、鳴滝塾に関して、今、市長からお話がありましたけれども、入り口の中川町から鳴滝までの、これは非常に狭い道路でありまして、立派な記念館もあるわけでありまして、今でもかなりたくさんの方が行かれております。復元をされますと、なお一層多くの皆さん方が観光としてお訪ねをするわけでありまして、この入り口の狭隘な道路がぼちぼち俎上に上がってきているころだと思いますので、お示しをいただければと思っております。

それから、コンベンション開催の補助金についてお尋ねをしたいと思うんですが、ことし県の負担が半分ということではありますが、7,900万円という莫大な補助制度をおつくりいただきました。大変ありがたいとは思ってはいるんですが、ややもすれば、そういう補助金を出さなくても訪問といいますが、イベントを、いろんな会議等を開催されるというものに乗っかっていかなるを得ないという形が、場合によってはできると思うんですね。そういうことがないように、この

7,900万円という制度を創設された、ここに至っては部局の相当な積み上げがあつてきたと思うんです。この程度のものであれば、もっともっとこのようなコンベンションを長崎に誘致できたのになと、よそに負けなくてよかったのになという経験があられると思うんですね。

そういったことを踏まえて、これから取り組まれる、ことしの年度の前半でありますから、結果がどうかということは、今、お尋ねすることも酷だと思えますけれども、そういった過去の経験を踏まえた、どのような経緯と、そういった意欲があられるのかということもお尋ねをしておきたいと思えますし、この際、コンベンションを誘致される立場の部長さんが、もっともっとコンベンションを開催するためには、こういうハコモノもあつたらなというものがあれば、どうぞひとつ出していただければと思います。

とりあえず、以上、5、6点をお尋ねしておきます。

観光部長（三浦勝夫君） 下条議員の再質問にお答えさせていただきます。

コンベンション開催の補助金についてお答えいたします。過去の試算によりますと、宿泊を伴うコンベンションの1人当たりの経済波及効果は、一般観光客に比べて2.5倍になると聞いております。本年度は、県と連携しまして、本市へのコンベンションを誘致推進することによりまして、観光振興及び地域の活性化を図ることを目的とした長崎市コンベンション開催補助金の制度を創設いたしまして、現在までの実績でございますが、4月から5月までの2カ月にかけて11件の申請が出ております。コンベンションは、経済波及効果への期待から、都市間競争の激化も予想されますが、今後とも、本補助金を有効に活用して、積極的に本市のコンベンション誘致に努めてまいりたいと思えます。

そして、中国と韓国の件でございますが、昨年は、議員さんも韓国に行かれたと思えますけれども、今回、中国は商品をもって、こういう商品がありますということをもってエージェントを回りたい。そして今回、北京、広州、香港といたしましたのは、中国の広州から約60%が来ております。香港も10位に入っておりますし、そういう意味で、

今一番長崎に来ている、もっと宣伝をしてもっと来ていただくということで、現在、ビデオも含めて中国もしていますし、また、今回、日韓の記念事業が8月1日から8月5日までありますけれども、これは議員もご存じと思いますが、今、うちの職員を1人派遣させているいろいろな交流を図っております。こういふことで、今回、また、高会長の方から70人の学生をこちらに派遣していただくような、そういう交流も図っております。

以上でございます。

企画理事（山本正治君） 私の方からは、「2006年春・こんなにかわる長崎」発信事業につきまして、女神大橋につきましてお答えをさせていただきます。

まず、「2006年春・こんなにかわる長崎」発信事業でございますが、発信する事業の目的につきましては、進化する長崎の状況を発信することによって長崎市への関心を高めるとともに、新しい長崎のイメージづくりを進めることにあります。そこで、PRする事業の選択については大まかな方針を立てております。

具体的に申しますと、1つ、平成18年春までに完成及び一定の成果が見込める事業であること。2つ、目に見えやすい事業であること。3つ、市外の方にとっても魅力のある事業であることの3点でございます。この観点から選択した事業は、道路分野におきましては、女神大橋、九州横断自動車道の市内延伸、出島バイパス、歴史・文化分野におきましては、出島復元（第2期工事）、（仮称）歴史文化博物館、（仮称）長崎県新美術館、唐人屋敷の顕在化、その他の分野におきましては、長崎港内港再開発事業の常盤出島地区、南山斜行エレベーター、斜行エレベーターからグラバー園への新ルート、長崎ペンギン水族館・海浜ゾーンなどの事業でございます。

なお、市民向けに発信する場合は、これに若干の事業を追加してお知らせしたいと考えております。

その発信方法についてでございますが、対外PRの方法といたしましては、これらの事業をまとめて示しましたリーフレットのものを作成し、全国の旅行代理店、報道機関、自治体、全国及び海外の長崎県人会などに配布することにいたして

あります。そのほか、ホームページの開設あるいは市民向けに出前講座のメニューに加えるとともに、広報ながさき等を通じての広報も予定をいたしております。そのほかの手法につきましても、さらに検討したいと考えております。

続きまして、女神大橋に関する再質問についてでございますが、平成18年春に完成予定の女神大橋を新たな観光資源として生かすため、昨年度策定しました環長崎港域構想に基づきまして、本年度に鍋冠山地区、女神・西泊地区の2地区を対象として整備検討委員会を設置し、検討を行うこととしております。

女神大橋兩岸の展望所の整備計画についてでございますが、昨年度策定いたしました構想の中で、女神大橋自体を利用するとともに、両端に位置する女神インター付近と西泊公園周辺の両方に展望所、駐車場等の休憩施設整備の必要性がうたわれております。

休憩施設整備に当たっては、景観面への配慮や事業手法などについて、委員会の中で検討してまいりたいと考えております。あわせて、女神大橋の事業主体でございます県との協議も継続して行ってまいりたいと考えております。

また、鍋冠山の整備とアクセスについてでございますが、グラバー園との一体的な活用のため、グラバー園内の旧三菱第2ドックハウス周辺から鍋冠山までの新交通システムの可能性や鍋冠山公園の集客施設のあり方などにつきましても、委員会の中で検討してまいりたいというふうを考えております。

以上でございます。

都市計画部長（松本紘明君） 第2西海橋構想についてのご質問でございますけれども、第2西海橋を含む佐世保市から時津町に至る道路、いわゆる西彼杵道路につきましては、延長50キロメートルの地域高規格道路として計画がされております。この道路の終点部でございます時津でございますが、臨港道路、これは時津と三重等につながる道路ですが、この途中に到達しまして、ここで浦上川線が北上していきまして連携されるというようなことで、西部地区、北部地区のネットワークの形成が図れるという計画になっております。

西彼杵道路と市内とのアクセスにつきましては、

国道206号、外環状線、先ほど申しました浦上川線の北伸等と連携されるという計画でございます。

この西彼杵道路の現在の進捗状況といたしましては、ハウステンボス付近の延長約2キロメートルにつきましては、有料道路「西海パールライン」として、平成10年11月から供用されております。また、第2西海橋を含む延長約9キロメートルにつきましては、整備区間に指定され、現在、県において第2西海橋の下部工等を整備しているところでございます。しかしながら、延長約40キロメートルに及ぶ相当な区間が未着工区間として残っております。

いずれにしましても、この西彼杵道路につきましては、西彼杵半島地域の活性化を図る上で必要不可欠な道路でございますので、本市を含む沿線の1市10町で構成する西彼杵道路建設促進期成会を軸に、国や事業主体であります県に対しまして、早期完成を積極的に働きかけてまいりたいと考えております。

以上です。

土木建築部長（佐藤忠孝君） 入り口部の拡幅整備の見通しはどうかという再質問にお答えします。

入り口部の路線であります市道鳴滝3号線は、国道34号中川交差点から分岐いたしまして、県立鳴滝高校前を通過いたしまして、現在建設中の片淵中学校を結ぶ中川・鳴滝地区の幹線道路として計画した延長1,200メートル、幅員10メートルから12メートルの道路でございます。

事業につきましては、本年度中に全路線の測量・設計を完了する見込みでございます。特に入り口付近の国道34号中川交差点から現在シーボルト宅跡の区間、延長360メートル、幅員12メートルにつきましては、本年度から用地買収を行いまして、早期完成を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

11番（下条文摩左君） はい、ありがとうございました。

もう少し時間があるようでありますので、もう少し質問を続けたいと思います。

先ほど観光部長からコンベンションについて、それから500万円等の使い道を含めたものもお話ございましたけれども、もう少し、7,900万円という、半分は県からいただくんだということが



頭にえられるのかもしれませんが、長崎市がいわゆる4,000万円弱というのがえられるかもしれませんが、7,900万円という、考えれば莫大な金額なんです。もっともどどのような経過が、今まで7,900万円、8,000万円という大きな金額を皆さん方は補助として獲得されたわけですから、どのような意気込みがこういうものを生んでいったのか。そしてまた、それがどう成果が出るのかという、いわゆる今の段階では成果は求められませんので、意気込みぐらひはもうちょっと感じられるような答弁がほしかったなという感じがいたします。

それから、韓国向けにつくったビデオ、この件についてお答えがあるかなと思っていたんですが、答弁が三浦部長からございました。これは私は今、再質問の中で申し上げましたように、中国向けで、いわゆるアジア向けにつくったビデオを韓国、中国というものに持って行くんだなと思っていたら、「いいえ、これは特別に韓国向けにつくったものです」というものが、あとの委員会でちょっとお尋ねをしたら出てきたんですよ。そこで、余り長くは話をしませんが、指摘をしておりましたので、きょう、こうしてお尋ねすることにおいては、一定の何らかの回答が出るものだというふうに思っていたんですよ。それでちょっと質問を委員会から続けてやっているわけですが、どうなんでしょうか。どうぞひとつ、その点についてお話を聞かせていただければと思っております。

それから、これは要望的に意見としてとどめることになるかと思いますが、というのは、明日の吉原日出雄議員の質問の中にランタンフェスティバルについての質問がありますので、恐らくこの件についても波及されるのかなと思いますので、意見的に短く申し上げますが、本当に地元開催、長年のいろんな知恵を踏まえられて、長崎市が一体となって開催をされまして、冬のイベントとしての大成功をおさめるようになったわけですが、だんだんと年を追うごとに、私も大体毎年、新地の湊公園に足を向けているわけですが、今は私も身長がそんなに高くないものですから、真ん中あるいは後ろの方に並びますと、全くイベントの舞台のところが見えないというぐら

いにあります。今の人は背が高いこともありまして、にっちもさっちも体を動かすことができない。大変ありがたいんですけども、こういうときになってきましたので、当初お始めになった皆さん方のご意見というのが一番中心になるかと思いますが、いよいよアーパンの埋め立て広場ができ上がっていくわけでありまして、いわゆるにちゃん広場というのができましたが、これとの導線的なものでならないものかどうか。これは主催者というのが長い間がありますので、そういったものをお考えになっていくときがくるのではないかなと、明日、そういった質問が出るかもしれませんので、ぜひひとつそのときで結構でございますが、できますかね。ランタンフェスティバルというものが出されておりますので、そのときで結構でございますから、どうぞ意見を申し上げたいと思っております。

それから、長崎のまちづくり、いわゆる2006年を中心としたもののお話と、その発信についてお話があったわけでありまして、いよいよ高速道路が延伸をされ、そして、それが出島バイパスという形で長崎の中心にどんと出てまいります。そこから異国情緒を感じる長崎が、従来の本河内からでありますとか、昭和町のバイパスからありますとか、そういったところから入ってきた観光客の皆さん方が「異国情緒の長崎、イメージがないね」というものは、随分と変わってくるだろうなという感じはいたします。いわゆる港町、異国情緒、やっこの港町のウォーターフロントというものが姿をあらわして、今、ごく一部は、もう市民の皆さん方に提供をされておるわけでありまして、そういう中に高速道路が入ってきますので、中心的な観光客は市内の延伸された出島バイパスから入って来られるのかなと思いますけれども、それにしても、まだ異国情緒という観光客の皆さん方が長崎のイメージをされているものには大変ほど遠いわけでありまして、これから唐人屋敷も、これも特に特別委員会が中心となっている研究を議員間でもされるようでありまして、理事者と一体となって勉強をしながら、非常に楽しみにしております。いわゆる南山手・東山手の洋館群、それに唐人屋敷というものが今後、また一つの観光地として異国情緒を出してい

くことになるわけでありますから、非常にその整備が楽しみであります。

それからまた、寺町ゾーンの件もよく理事者の皆さん方も触れられるわけでありますが、あれだけのすばらしい歴史のある、しかも、国宝級に値するいろんな文化財に指定されているものがたくさん並んでいるというのは、これは長崎にあんなすばらしいものがあつたのかと思われるぐらい、なかなかつい最近までは表に出てこなかったような大きな観光資源であるわけでありまして、これをもっともっとPRができる、そしてまた、PRをしたら、そこが散策できるようなまちに大至急やるべきではないか。そのためにも、お寺の由来の説明板をもっともっと全お寺に取りつけていくとか、あるいはまた狭い道路で車がどうしたらいいか、ほかの道路も整備をされておりますので、そういった点がどのようにされていくのか。

それから、特にお寺が所蔵されている非常に宝物的なものもたくさん眠っているといいますが、保管されているものがあると思うんですね。そういったものを観光客にお見せすることができるような、当市と一体となって研究してもらえないだろうか。それから、中島川との一体化というのは、いつも言われておりますけれども、そういったことが、次の唐人屋敷の前に、もっとこの寺町ゾーンというのは、今後、皆さん方が力を入れられていかれると思いますが、どうぞひとつご所見がありましたらお尋ねをし、その後が唐人屋敷の顕在化となっていくと思いますけれども、何といたしても、そういったものがゾーンの的にでき上がっていく、それと同時に、長崎に訪れた人がメイン道路を通っても異国情緒が感じられるようなまちにつくっていく必要もあるんじゃないか。

この件については、また別の機会がありましたら意見を交わしたいと思いますけれども、少なくとも、きのう毎熊議員が幹線沿いの緑地帯の件で厳しいご指摘を含めたご意見がございましたけれども、今は車社会です、もう何十メートルか、あるいは5メートル、10メートル動けば、もうガードレールが全然違うのが、しかも、曲がったのがいっぱいあるんですね。そういったことは、車社会ですから、やはり統一をずっとしていく。並木通りもそうですね、統一をしていく。場合によ

ては、稲佐山から夜間の眺望を見たときに、例えばメイン通りはナトリウム灯というのですか、あの黄色い強いやつですね、あれでやっていく。例えば国道がそれでやるならば、県道・市道は水銀灯でやっていくとか、そういったことで夜景を稲佐山から見たときに、そういうものが非常にきれいな夜景をつくっていくわけでありますので、そういったものを何かまちづくりの統一性というものがないような気がしてならないんです。ぜひこれも長崎市が主導的な立場を取られて、県の管理だ、国の管理だと言わずに、長崎市のまちづくりという観点から見たときには、長崎市が主導権を取って、そういうものをぜひ発揮してもらいたいと思いますが、どうぞひとつご見解があればお尋ねをしておきたいと思っております。市長（伊藤一長君） 下条議員の再質問にお答えいたしたいと思っております。

今、樹木のこと、あるいはガードレールとか、そういうものとまちづくりとの絡みの話を一番最後にされました。実は、この前、毎熊議員のときに私も答弁をしようかなと思ったら、全く答弁の時間がなくて時間切れになったのを、先輩議員である下条議員が今、いみじくも補足していただいた形になりますので、せっかくの機会でございますので、私の考え方を述べさせていただきたいと思っております。

基本的には、長崎市の場合、この4月に奈良市さんと倉敷市さんが入りまして中核市が30都市になったわけですが、総務大臣との懇談会のときも含めて毎年申し上げているし、去年まで、28都市の市長さん方が異口同音に、自分たちは30万以上の中核市なんだから、政令指定都市の場合は、これは当然、政令指定都市の権限で都道府県と全く同じ権限がありますので、できるわけですけれども、自分たちの行政区域内の道路、国道であろうと県道であろうと、市道はもちろん市でできるわけですから、そういうものの花木とか植栽とか道路の維持とか、そういうものは自分たちにさせてほしい、させるべきだと、それが今、下条議員がおっしゃったのと全くいみじくも同じでございますが、それができれば、そういうものの移管をしてもらえば、今、規制緩和とか地方分権の時代でございますので、それをしてもらえば、今、言

われたイメージづくりというのは、これはみんなの知恵を絞って可能だというふうに思います。

ちなみに、私が就任しまして、私も微力なのかもしれませんが、7年間実は、これは県や国に対して全く同じことを申し上げております。早く長崎市に移管してほしいと、予算は前年度の予算で結構ですと、新年度の予算は無理でしょうから、前年度の予算で結構だから、予算分をもらえば、あとは長崎市が知恵を絞ってやりくりしながらやりますので、道路とか植栽とか花とか花木とか、そういうものをやらせてほしい。そうしなければ長崎市に来る方が「てんでんばらばらではないか」と、来られる方も市民も、どこが県道でどこが市道なのか国道なのかわからないわけですから。しかし、イメージとしては、今、下条議員がおっしゃったように、一つの統一したイメージ、これはまちづくりとして、特にオンリーワンということを掲げておりますので、大事なことではないかなと、これは全国の中核市、ことしの秋にも中核市サミットが長崎市である予定になっておりますが、これは大きなテーマになっておりまして、ぜひ議会の皆様方と一緒にあった形で実現に向けて今後とも私どもも頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたしたいと思います。

以上でございます。

観光部長（三浦勝夫君） 下条議員の再々質問にお答えします。

コンベンション協会の件でございますが、コンベンション協会に職員がおりまして、商工会議所、医師会、歯科医師会、そしてライオンズ、ロータリー、そういう企業をずっと回って、今、いろいろな大会をしてくれないかということで鋭意努力しております。

今回、4月、5月で11件ということは、今までにないことでございますので、今後、またこれを拡大して、長崎県の予算もつけていただきましたので、一生懸命努力していきたいと考えております。

また、韓国のビデオの件についてでございますが、実を言いますと、2月に韓国のエージェントが10人こちらに来まして、長崎の魅力を発信してくださいと、それに基づいてビデオをつくり直しまして、いろんな意味で、今度は、どういうもの

を韓国は望んでいるのかも含めて、いろんな条件をもらっております。それに基づいて、今回、10月にまた韓国に行くわけでございますが、その前にきちんとしたビデオをつくっていきたくて考えております。

以上でございます。

11番（下条文摩左君） 市長から、まちづくり、特にメインストリートの沿線についての前向きなありがたい答弁をいただきました。

また、観光部長からも、韓国での誘致活動をされるわけですが、その前にエージェントの皆さん方に来ていただいているいろいろな知恵をいただいたもので改めて制作をされたいということですので、大変ありがたく答弁をいただいたということにし、時間がありますので、要望といいますが、意見を申し上げながら締めたいと思います。

今、それぞれのまちづくり、特に、2006年ということですから、すぐ目の前に訪れる短期的なまちづくりについて、市長並びに理事者の見解をそれぞれいただいたわけでございますが、こういった時期を前後にして、例えば図書館でありますとか、あるいはまた市立病院もそういう時期にくるかなと、あるいはまた、中央消防署ですね、消防署も建て替えの時期が来ているわけでありまして、いろんな要望を私たちもたくさんいたしますけれども、そのもととなる財源というものが大変だろうなと思っているところでありますけれども、今やっとな、伊藤市長、金子知事といっただいでしょう、このコンビの中で、長崎市、長崎県が一体となった事業が市民の皆さん方にも目に見えるような形で出てまいりました。諏訪の森であるとか、間もなく立ち上がる新美術館の問題とか、あるいはまた図書館もそのようなことになるのかなと、長崎市の病院もそうならなければなど、いわゆるひとしく利益を受けるといいますか、受益者は長崎市民でありまして、限られた財源の中でお願いすることがたくさんあるわけですから、できる限り、今は道路も非常に県と市が一体となって予算を出し合っているわけでございますが、なお一層種々のいろんなハコモノを中心としたハード面の長崎市の充実のために県市が一体となられて、県のお金である、市のお金であるというよりも、企画段階から一体となって、なお一層今の姿

を推進してほしいということを申し上げまして、私の質問にかえさせていただきます。

ありがとうございました。

〔「関連」と言う者あり〕

副議長（松尾敬一君）35番佐藤 忠議員。

35番（佐藤 忠君） 観光部長に、一つ関連してお尋ねをしたいと思います。

ご案内のように、長崎の経済の落ち込みがなかなか回復をしないということで、特に長崎の場合は、やはりこれからは観光客の誘致にかかっていると、こういうことで議会も一生懸命に理事者あるいは観光業界の方々とともに勉強をしながら努力をしているのは、ご案内のとおりだと思うんですね。

そういう中で、もっと皆さん方をお願いをしたい。というのは、いろんな各種のイベント、あるいはいろんな全国規模の大会というものを長崎に引っ張ってきてほしい、あるいはそういうことを絶えず訴えてほしいと、こういうことで、それぞれ関係の方々にもお話をしているところでありますけれども、その中で、先ほどから出ておりました長崎らしさをいかに出すかと、こういうことになりますと、当然、さっきもお話がありましたランタンをどう有効的にふだんでも使えるのかということにかかってくるのではないかと思うんですよ。

ですから、これを年1回使って、あとはしまい込むだけではなくて、例えば屋外で集会を開くとき、イベントを開くとき、あるいは屋内でも市役所の中に飾っておりましたランタンですね、ああいうものを市の方も貸し出して、その会場を盛り上げてくる。そして本番のランタンフェスティバルのときには、こういうものがたくさん飾っていますよということで、本番のランタンフェスティバルのときにはたくさんの客が来ていただくと、

また、リターンしていただくと、こういうことを役所の方はどう考えているのか。

どうも、今見ておりますと、1年に1回使って、あとはどこかの倉庫になおしているようでございますので、これの使用方法について観光部長の見解を求めたいと思います。

観光部長（三浦勝夫君） 要望があったら、今はいろんなところで物産展をやっておりますけれども、長崎のランタンを持って行って飾ったり、要望があれば、大きいオブジェは難しいと思いますけれども、ランタンなどは要請があれば貸しております。また、長崎が物産展をするときには、そういうものを持って行って飾っております。そういうことはやっております。

以上でございます。

35番（佐藤 忠君） よそに出かけるときは持って行って使っているということでありますけれども、実際に長崎でやっているときに、というのは、にちらん広場がこれからできるんでしょうけれども、こういうところで使うときに、今度はある程度の数をしなければ目立たないわけでございますけれども、そのときに、じゃ電気代をどうするかとか、設置費はどうするのかという、そういう問題が多分出てくるだろうと思うんですよね。そういう意味では、それだけのお客さんが来ていただくわけですから、ある程度、長崎市も補助を出して、長崎市の方がつくって上げますよというか、そういう観光サービスもぜひ検討をしていただきたいと、実は要望をしておきたいと思います。

副議長（松尾敬一君） 本日の市政一般質問はこの程度にとどめ、明11日午前10時から本会議を開き市政一般質問を続行いたします。

本日は、これをもって散会いたします。

= 散会 午後2時29分 =